

和田地区まちづくり推進委員会

NO	分類	質問	回答
1	運営	役員の人数と平均年齢が知りたいです。	50台後半から60代前半ぐらいです。
2	運営	キーマンはおられましたか。 終わりのない事業ですか？(金銭のことなど見込みがあると言う事？)メンバーも協力できると言う事で しょうか。	キーマンはいますが、後継者や協力者の広がりの面で難 しいのが現状です。
3	運営	役職の重複により負担が増大していく中で地域活性化の活力とされているものは何でしょうか。	地域の自然(田畠だけでなく、山や川なども)を守りたいと いう強い思いです。
4	運営	地域内の若者(40歳～60歳代)とありますがもっと 若い世代は参加したいという声はないですか。	協力はしていただけますが、実人数が少ないこともあります。 多くを望むと負担感を感じるのが現状だと思います。
5	運営	①既存のまちづくり委員会の中に新設する際に苦 労したところは何ですか。 ②規約等はどうしましたか。 ③事務局としてまちづくりセンターと市はどのように 関わっているのでしょうか。	①苦労したところ:「新設ではない」ということを役員・まちづ くりセンター職員が理解するまでに時間がかかったことと、 一般住民への理解を浸透させることです。 ②規約:現行のまちづくり推進委員会規約で対応していま す。 ③他団体との関わり:農村RMOに手を挙げたおかげで、他 地域への視察や他地域からの視察が増えて、共通の悩み に対する取り組みの工夫を学ぶことができました。
6	運営	これまでの取り組みで効果のあった事例があれば 教えて下さい。 活動を支える人材や後継者はどのように確保または育成されていますか。	ワーキングチームの立ち上げが、今後のまちづくりの推進 に力を与えています。(アイディアだけでなく、次世代の リーダーづくりの面で)
7	運営	様々な事業をおられますか、まちづくり委員会 の負担感は如何なものでしょうか。	他のまちづくり組織と同様に「後継者」や「役職の重複」な ど、負担感はあると思います。また、今後10年どころか5 年、もしかして2・3年のうちに立ち行かなくなるという危機 感があります。
8	運営	中山間直払い、多面的機能事業をまちづくりに取 り込んでいますが、この取り組みは他の浜田、旭、 弥栄、三隅等でされている例がありますか。	浜田市内の全ての地域で実施されています。
9	農村 RMO	農村RMOについてもう1回教えて下さい。	ご要望があれば、直接伺ってご説明します。
10	農村 RMO	農村RMOはまちづくり事業として行われていると いう理解で良いのでしょうか。	まちづくり事業=RMOの活動で、そこに「農村」がつくため、 3本柱の一番目に「農用地の保全」がくるという感じです。
11	農村 RMO	若者の農業に対する支援や、放棄地の低価貸与 などは考えておられますか。	現在、ワーキングチームの中から「若者の農業従事者」の 兆しが出てきていますので、何らかの支援ができればと 思っています。
12	農村 RMO	①農業法人は何団体設けますか。 ②広域で中山間集落協定や多面的機能を取り組んでおられるようですが課題は何ですか。	①団体数:農業法人限定した法人は想定していません が、現在1法人の設立を目指しています。 ②課題:中山間集落協定は広域化していますが、多面的 機能組織はスケールメリット不足のため広域化していません。 最大の課題は「守るべき農地と已む無く荒らす農地」 の選別を早急に進めた農地保全対策が必要と思われます。

13	農村RMO	①農村RMOの導入は誰からの案でしたか。 ②メンバー構成を知りたいです。 ③進め方が知りたいです。 ④農業の後継者の確保はどうしますか。 ⑤どんな状態、展開を見据えていますか。	①提案者:そもそも行われていた活動が「農水省の目にとまり声がかかった」というのが現実で、具体的な提案者がいて立ち上がったものではありません。 ②メンバー構成:現状の「まちづくり推進委員会」役員ときっかけをつくった有志の方(和田の未来を考える会) ③進め方:和田の未来を考える会のワークショップやアンケートを通して出てきた思い(「和田の自然を次世代に残したい」)をまちづくり推進委員会の活動に取り入れて、まちづくりの課題として取り組んでいく。 ④後継者:今後、育てていくことが課題です。 ⑤展開:外部からの関係人口的な協力も含めて地域の力を維持、蓄えていき、無理のないまちづくりを進めていく。
14	農村RMO	農村RMOは国からの補助金が得られるのですか。	農村RMO育成支援として3年で最大3000万円です。
15	農村RMO	農地保全において高齢世帯への伴走はどのように考えますか。	難しい課題です。例として圃場整備やICT導入なども将来の後継者のためにということで、現在取り組んでいる高齢世帯に理解をしていただこうと考えています。
16	農村RMO	耕作放棄地は年々増えていますか。	増えているのが現状ですが、平成12年からスタートした「中山間地域等直接支払制度」のお陰で、想定していた数よりも多く推移しています。今後は耕作放棄地対策として、耕作放棄地予備軍である「自己管理保全地」の利活用が喫緊の課題です。
17	農村RMO	【エゴマ等の販売について】 ①エゴマ、ニンニクは販売しておられますか。 ②その他使い道はありますか。 ③今後、どのくらいの収入を想定していますか。 ④売上金はどのように使っておられますか。	①販売の有無:エゴマについては、販売しています(口コミで)。市販されているものより安価です。ニンニクについては、「今後の収穫を待って」という段階です。 ②販売以外の使い道:エゴマに関しては、「エゴマ自体で儲けよう」という発想からの取り組みではありません。獣害対策・耕作放棄地対策としての試験的な取り組みです。 ③収入想定:多少の収入にはなりますが、上記②のとおり、それで利益をあげて何かに役立てるという形にはなっていません。 ④売上金の使途:取り組んでいただいた方に還元して、次年度以降の費用に回すというのが現状です。
18	法人化	法人化した場合収益はまちづくりセンターの収益になるのですか。	まちづくりセンターの収益にはなりません。
19	法人化	まちづくり法人設立の進捗はどんな段階でしょうか。	現在、1団体が立ち上がりつつある状況です。
20	法人化	法人化して何をされる予定ですか。	今後、まちづくり推進委員会の活動(例:環境整備・「てごの和」「ガソリンスタンド運営」など)につなげていければと考えています。
21	法人化	①4自治会は認可地縁団体ですか。 ②新たな「まちづくり法人」設立には4自治会の合併を考えておられますか。	①認可地縁団体:1団体(戸川自治会) ②合併の予定:近い将来合併も視野に入れています。

22	法人化	法人化について想定している法人形態(一社、NPO等)とその理由について知りたいです。	農業が主体の地域であることから、農事組合法人も想定しましたが、現在の農業情勢(米価も含めて)を鑑みると単独法人は非常に運営が厳しくなることから、農業以外の事も収益として得られるような、多角経営型法人の設立を目指しています。(農業受託・未利用施設(空き家)再利用・てごの和・GS経営他)
23	法人化	法人化して収益が黒字になる見込みがあるのかどうか聞いてみたいです。	黒字化を図るのはもちろんですが、圃場整備等法人化を進めないとできないこともあるため、法人化を目指しているのが現状です。
24	地域の反応	地域の中でも事業に反対される方もあると思います。対話を重ねる他、何か取り組みをする方策をお持ちでしょうか。	住民理解のための具体的な取り組みや努力 農村RMOに対する住民理解を進めるために、三本柱を一つずつ取り上げて、住民との学習会(講師を招いての講演会)を行っています。まちゼンの負担については、立ち上げからまもなく2年を迎えますが、農村RMOを特別なことではなく、「まちづくり活動」として捉えることで、今までの業務とのすり合わせを行って、負担感が先走ることがないようにしています。
25	地域の反応	まちづくり、農村RMOについて住民の理解がなかなか進みません。具体的にどのような取り組みを考えていますか。	本件(RMO)をまち委が取り組むことでまちゼンの仕事が増えて困るとか文句等は出ませんか。次から次へとフェーズを上げることはすごいことだと思いますが、まち委のメンバーとか地域住民への理解にどんな努力をされているのですか。
26	地域の反応	取り組み実施後の和田地区の方々の声や反応はどのようなものがあるか知りたいです。	農村RMOとして取り上げられることで、地区外の方々の興味関心をひくことが多く、地区内の住民理解が進んでいるかと問われれば、むしろそちらの方に課題があります。住民理解が深まるようにするためにまちづくりセンターの役割が問われていると感じています。
27	地域の反応	非農家の方の農村RMOに対する感想・印象を聞かれることがありますか。	直接、非農家限定に農村RMOについて問うたことはありませんが、「農家・非農家を問わず、和田の自然を残そう」というのがテーマですので、現状、参加してもらっている事業や活動がそのまま「農村RMO」につながっているということは、折をみてご説明しています。
28	ガソリンスタンド	和田のGSはなぜ安いのですか。	委託された経営者の努力につきますが、今後の経営も含めて「給油所支援の会」を中心に地域住民で協力して支えていくつもりです。
29	ガソリンスタンド	①和田の給油所はまちづくり推進委員会自体が運営されているのですか。 ②従業員の後継者対策はどう考えますか。 ③まちづくり推進委員会が従業員を探すのですか。	①運営:現状は、個人の方に委託しています。 ②後継者:今後の後継者育成、運営支援については経営者と相談して進めています。 ③探すのは:②の進み方次第ですが、個人の努力に任せのではなく、きめ細かな支援が必要だと感じています。
30	ガソリンスタンド	①新設の和田給油所運営支援の会の具体的な活動は何ですか。 ②決算はどうしていますか。	①具体的な支援内容:リニューアルオープン支援、幟旗やステッカーなどのPR、一番は住民の直接的利用 ②決算:リニューアルにあたっては浜田市の支援、JAの支援を受けています。
31	ガソリンスタンド	ガソリンスタンドの支援として、地域住民の方が行っている活動などがあれば知りたいです。	上記31参照
32	ガソリンスタンド		

33	有償ボランティア	有償ボランティアの内容としては草刈りだけでしょうか。	蜂駆除、簡単な家事支援などメニューを設けていますが、現状は、草刈り・蜂駆除が多いです。
34	有償ボランティア	①有償ボランティアの金額が知りたいです。 ②何人の人が申し込んでいるのか知りたいです。 ③どのような年代の人が参加されていますか。 ④メンバーの構成を教えてください。 ⑤どのくらいの報酬ですか。 ⑥今後も、人材がいますか。	①金額: 基本的に1時間あたり1000円(2時間まで) ②申込人数: リスト上50人くらい ③従事者の年代: 50・60代が多いです。 ④報酬: 上記①参照 ⑤人材: 若い世代は参加が難しいです。
35	有償ボランティア	「てごの和」の具体的な活動の流れを教えてください。	パンフレットやまちづくり推進委員会ホームページをご参照ください。
36	その他	地域おこし協力隊の方が空き家バンク登録支援をされているとのことでした。何人の方が他にどのような役割を持って暮らしておられるのでしょうか。	現在、地域おこし協力隊として1名の方です。ワーキングチームが空き家対策についてサポートします。
37	その他	まちづくりとしての活動と同じ部分が多いと思うので組織を別々に作る意味はありますか。	別々ではありません。しかし、農村RMOに取り組むということで、組織の再編を図っています。
38	その他	人口減少はどう考えておられるか。	長期的にみれば、減少ではなく、若い世代を中心に増加していくように目指しますが、「減少を嘆くだけ」ではなく、今まで通りにいかなくなってしまった活動の見直し(場合によってはピンチをチャンスに)という視点で取り組んでいく必要があります。ただ、早急な人口増加は難しい(それができれば他の地域の方々も苦労をしていませんね)ので、現在暮らしている人々が「安心して・楽しく(楽しくにはいろいろな意味があります)」暮らすことで、新しい人や若い世代が住みついてくれればと思います。気の長い活動ですが、一方では上記「7運営」で述べたように「10年どころか5年、もしかして2・3年のうちに何とかしないと」という危機感でやっています。
39	その他	健全スポーツ部会の活動内容を教えて下さい。 地区民の笑顔交換のイベントはありますか。 「ふるさと教育」活動にかかわっておられますか。	一例として「地区民運動会」などコロナ禍を経験し、なくすのではなく、改めて価値づけて(多数の住民が笑顔で集まるような活動は他に簡単にはみつからない)、高齢化やその他の現状にあったような内容に変えて「地区民対抗レクリエーション大会」のようになっています。また、昨年度から屋外バスケットコート新設を記念して始まったフリースロー大会のように新しく住民が集まるような工夫をしています。根底には、児童・生徒も巻き込んだ「ふるさと教育」活動とも関連があると言えます。
40	その他	地域産直市への支援の内容を教えてください。	現在は、「ふるさと祭り」参加支援が中心ですが、産直市に関わる方々も高齢化が進んでいるのが現状ですので、何らかの支援や新しい取り組みが求められています。
41	その他	今後、課題への取組等、特に力を入れていこうと思われることは何ですか。	農村RMOに取り組み、他地域の方々と意見交換をする中で「無理なく継続していく形で」「楽しみながら」「農用地の保全をベースに自然を守りながら」まちづくり活動を続けたいと考えています。「便利でもなく、不便でもない」という言葉はそれを象徴しています。